

未来につながる道

岐阜市立三輪中学校 3年

山口 夢叶

「いじめている子は、いじめられるよ。」この言葉は、母が教えてくれた言葉です。私にとってこの言葉は自分を変える一歩になりました。

去年、岐阜市でいじめによって命を落としてしまった子がいるのは知っていますか。それをきっかけに、岐阜市内の中学校ではいじめについて考える時間を設けることになりました。

あなたにとっていじめに含まれるものといえば何ですか。いじめといえばどの範囲ですか。このように質問されたら何と答えますか。私は、「自分がされて嫌なことは、相手もされたら嫌だよ。」という言葉聞いたことがあります。しかし、この言葉は少し曖昧です。私がされて嫌なことを想像してみました。蹴る、たたく、物を取られる、バカにされる、いじられる、陰口を言われるなど他にもありました。しかし、私の想像した中の「物を取られる」は、いじめなのでしょう。感じ方は人それぞれだということは、相手の気持ちを知っていないと相手はどう思っているかは分からないのではないのでしょうか。ある日の授業で、先生が話していました。あなたは、いじめたことがありますか。あなたは、いじめられたことはありますか。この質問の答えを集計すると、「いじめたことがある」より、「いじめられたことがある」という答えのほうが多いということを教えてもらいました。このことから同じことが言えるのではないのでしょうか。自分はいじめていないと思っていたとしても、相手はいじめられたと思っているかもしれません。ですから、私たちは相手のことを理解して行動をしなければなりません。またされた側もあまりいじめだと決めつけず、あの子はどうしてあの行動をしたのかを考えてみてはどうでしょうか。

いじめだけでなく、いじめにつながる行動についても考えてみました。いじめは、いじりや陰口などの行動が発展していじめにつながると私は考えました。いじめにつながる行動は私もしていた事がありました。それは、陰口です。私は母に学校であった出来事をよく話します。その日、私は、いじられている子を見ました。それについて、いじられている子がかわいそうだったと話しました。すると母が「いじめている子は、いじめられるよ」と話してくれました。私はいじっている子がゆるせませんでした。しかし、よく考えると私は陰口を言っている。私はいじっている子と同じようないじめにつながる行動をしている。私はいじっている子と同じなんだと、反省しました。もし、陰口が発展していたら、いじめになっていたかもしれない。母が言うように、いじめになっていたら、私がいじめられていたかもしれません。もちろん、私はいじめられたくないと思ったので。その日から、陰口をやめようと一歩をふみ出しました。

私の陰口が少し減ってきた頃、友達に相談にのってほしいと言われ、その子の友達関係について話を聞きました。私は、ただ話を聞いてあげるだけで上手にアドバイスができなくて、少し、モヤモヤしていました。その後、だんだん他の友達の相談ものようになりました。部活の事、友達の事、いろいろな相談にのる機会が多くなりました。しかし私は、まだまだ上手にアドバイスができなくて、友達が話してくれても、スッキリさせてあげることができていないと思います。

私の陰口はまだ少しだけ残っています。母が教えてくれた言葉を心のかたすみに置いて、陰口を言わないようにしています。あなたもこの言葉を心のかたすみに置いてみてください。そうすれば、きっと少しずつ世界からいじめが消えるでしょう。今後私は、友達にたよられたり、相談されたら、その人がスッキリできるような相談相手になりたいです。そして将来、人の役に立ったり、たよられたりするような仕事に就きたいです。